

オバマ氏訪問に触発され決意

ヒロシマ 21歳の語り部

ピースキャンプに宿泊する外国からの訪問者たちと交流する
島田彩花さん(右)=4日午後、広島市安佐南区



71年目の原爆の日(6日)を前に、国内外の旅行者を受け入れる「ヒロシマピースキャンプ」が4日、広島市にオープンした。運営する学生の中に、神戸市西区出身の広島工業大3年、島田彩花さん(21)の姿があった。阪神・淡路大震災の年に生まれ、被災地の経験を聞いて育った世代。広島でも過去の惨禍に触れ「記憶を伝えたい」と思うようになった。オバマ米大統領の訪問後、初めての夏。「訪れる外国の人たちと一緒に平和を考えたい」と願う。

(杉山雅崇)

神戸出身の地元大生 島田彩花さん

今年、現職大統領としてオバマ大統領が初めて広島を訪問したことを契機に関心を寄せる外国人が増加。アメリカやドイツ、フランスなど9カ国から約40人が訪れた。島田さんも触発された一人。高校まで神戸で育ち、両親をはじめ

キャンプは、殺到する国内外の訪問客に宿泊所を提供しようと、広島市が8年前、市立大(同市安佐南区)の敷地で始めた。大学生ボランティアらが7日まで運営を担い、食事会や被爆地のウォーキングなどを企画する。

外国人と交流、「共に平和考える」

「ヒロシマピースキャンプ」には世界各国から多くの若者が集まり、原爆と平和について意見を交わした。訪れた人たちの目に広島や原爆はどう映るのか。思いを聞いた。核保有国のロシアから訪れたボリーナ・プルニコヴァさん(20)は「核兵器を完全になくすことは難しい。でも、広島に来れば二度と核兵器を使っ

爆投下を語り継ぐ同世代らと出会い「震災も原爆も伝えなくては」と賛成に分かれたが、歴史の訪問に間近で接し、ボランティアの参加を決めた。「原爆を落とした側と落とされた側。その

周囲から震災の経験を聞いた。明確な被害の記憶はないが、被災地の経験を「忘れてはいけない」という気持ちはある。進学した広島で、原爆投下を語り継ぐ同世代らと出会い「震災も原爆も伝えなくては」と賛成に分かれたが、歴史の訪問に間近で接し、ボランティアの参加を決めた。「原爆を落とした側と落とされた側。その

核廃絶へ協議を 犠牲者に祈り

「ピースキャンプ」各国の若者

民も兵士も見境なく虐殺する原爆は本当に恐ろしい。犠牲者に祈りをささげたい」と真剣な表情で語る。「熱線だけでなく、がんや白血病など後遺症を引き起こす核兵器は、もう使ってはいけない」とカナダ人のギャブリエル・エモンドさん(18)。「オバマの訪問は歴史的な出来事で核廃絶に向けたポジティブな動き。でも1国だけではダメで、各国が協議して少しでも減らしてほしい」と今後の動向に注視する。

(杉山雅崇)